西光

第８号

百橋山　西光寺
高岡市京町一〇－二五
電　話（〇七六六）二二－二九七一
ＦＡＸ（〇七六六）二二－三二七〇
平成六年九月十五日

《阿弥陀様の手ー猛暑の中の祠堂経法会ー》

昨年の冷夏とうってかわって、今年は類のない猛暑であった。この猛暑にもかかわらず、八月七日・八日の両日行われた永代祠堂経法会には、たくさんの方が参詣された。お説教は毎年小杉在の葉室文昭師にお願いしているが、満堂の参詣人を前にして熱っぽい口調に、一段と力がはいったことだった。祠堂とは、亡くなった方への供養に、残された私たちも「南無阿弥陀仏」の教えを永く伝えていきますよ、という誓いをたてることであり、祠堂経法会には、祠堂をあげられた方のお経があがるわけだが、特に今年の参詣人の中に若い新しい顔ぶれが目立ち、寺族、世話人一同、大変嬉しく思った。子育て、孫守りも一段落し、はじめて寺の行事に参詣する方もあれば、親の代を継いでおばあちゃんやおじいちゃんの代わりに、はじめて寺の門をくぐる方もある。おじいちゃん、おばあちゃんも、お元気なのだが、そろそろ、若い世代の人も聞法の場にでんとあかん、とお年寄りが後押しをしてくださる。近所の方も、さぁ一緒に車に乗って、お寺へ行って、お経に会って、お話を聞こうよ、と誘ってくださる。このようにまわりのみんなが、一人一人を聞法の場に引っ張ったり、後押ししたりして下さる、この手は、実は、まさに阿弥陀様のお導きの手なのである。親の伝を継いで、寺へ参詣し、共に聴聞し、仏法を聞かせていただこうと、発心される善男善女が、今後益々ふえることを心から願っている。そして参詣された方々が、寺へおまいりしてよかったと、家へ帰って、聞いてきた話の一端でも、みやげ話に、家族の人と話題にできるようにと心がけている。

本年は本堂内陣の畳及び庫裡の畳を新調して、十月八日・九日の報恩講勤修の準備をしている。今年は好運なことに八日・九日が、土曜・日曜の休日にあたる。報恩講は初夜勤めもあり、夜七時より大蝋燭に火をつけ、親鸞聖人の伝記のビデオ鑑賞、正信偈唱和と法話があり、その後夜食として恒例の五目ご飯をいただく。お仕事やお勤めの関係で、なかなか昼間の法会に参詣して聴聞できない方も、是非この機会に参加してみてほしい。報恩講が、親鸞聖人への讃歌とともに、自分のあり方を見つめ、また人生を問い直して、人間の命に思いをはせる、聞法の道場となることを願っている。

《標語》

「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏もうさんとおもいたつこころのおこるとき、すなわち摂取不捨の利益にあずけしめたまうなり。」

《真宗ひとこと知識》

「永代経」

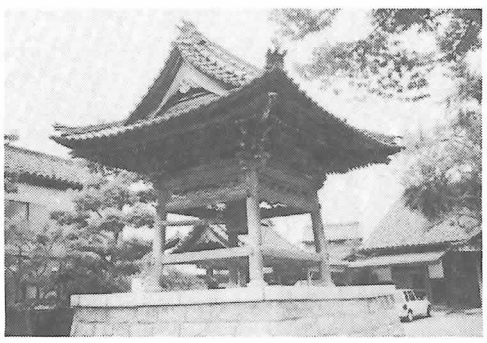
永代読経の意味で、寺院において故人の命日などに永代まで読経することをいう。一般の寺院では春秋に期日を定めて永代経法要を行うことが多い。他宗では追善供養のためとされるが、真宗では追慕とともに、自分自身が法を聞く機会として意味づけられる。（『真宗小事典』法蔵館）

《鐘楼》

山門と鐘楼は、大正八年に建立されたものである。五十嵐小太郎という、一代で財をなした人が、故郷に錦を飾るべく、門徒寺である西光寺や、そのほかご縁のある神社・仏閣にたくさん寄進をしたそうである。中でも鐘楼は井波の松井角平（瑞泉寺専属の宮大工・松井建設の先祖）の手になり、欄間の彫刻は、いわゆる井波彫刻の粋を表した素晴らしいものである。ところが、釣鐘（梵鍾）の方は、太平洋戦争の時に、たくさんの仏具と共に、金属類の供出に出してしまい、しばらくは鐘のない状態であった。しかし昭和二十二年六月に先代住職が、抑留先のシベリヤから帰国したのを機に、新しく梵鍾を鋳造したのが、現在の鐘である。ここにも戦争の暗い影が影響している。

釣鐘には、次のような銘がある。

「南無阿弥陀仏
百橋山西光寺　第二十五世住職　釋照顕
副住職　釋恵章
昭和二十二年建之
釋尼妙擽　五十里誠志　釋自慶　早瀬清一　釋空慧　島松次郎
釋善立　大坪外次郎　釋證專　米田長七　釋尼妙順　宮井與七
正覚大音　響流十方
釋浄心　釋妙顧　田中儀雄
浄明院釋皆縁　余川元吉　浄明院釋皆縁　余川佐太郎
他　門信徒一同
勅許御鋳物師　般若権右衛門」



梵鍾は、現在では、大きな行事の際に、その行事の一時間ほど前に突いて、開始を知らせたり、除夜の鐘として毎年大晦日に百八の鐘を突く。中でも除夜の鐘は全国の各寺院の鐘が十二時を目指して一斉に打ち鳴らされる。いつも近所の人に参加していただいて、この一年の平安に感謝し、また来るべき新年の幸福を祈って、交替で突く。これまで毎年無事に除夜の鐘を絶やさずに突き続けている。皆さんも是非参加して除夜の鐘を突きに来て下さい。寒い冬空の星を見つめ、また降りしきる雪に足を取られながら、突く除夜の鐘の風情は心に染み渡るもので、格別なおもむきがあります。

《行事予定》

一月一日・二日・三日	修正会・金剛参り		
一月八日	法話会（初お講）	〔講師　教願寺	釜田恒明師〕
三月八日	法話会	〔講師　教願寺	釜田恒明師〕
毎月八日	法話会	〔講師　教願寺	釜田恒明師〕
八月七日・八日	永代祠堂経会	〔講師　光専寺	葉室文昭師〕
八月十四日・十五日	お盆		
十月八日・九日	報恩講	〔講師　常久寺	安渓一心師〕
十一月八日	法話会	〔講師　光専寺	葉室文昭師〕
十一月二十七日	御正忌	〔講師　願浄寺	嶼　秀誠師〕
十二月三十一日	除夜勤行（除夜の鐘）		